# 令和６年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

**県北会場**

**科目　⑤児童期（６歳～１２歳）の生活と発達**

◆　子どもたちが、どのような家庭、どのような学校、どのような地域社会で過ごしているのかという視点を持つことが、発達理解や支援には必要不可欠だということを学びました。そして、私たち支援員は普段から日々の実践を振り返る時間を持つと同時に、子どもの発達について見通しや判断にも目を届かせることがとても大切だということも学ぶことができました。「熱心な無理解者」に決してならないように、そして自分が成長したものを子どもたちに返していけるように努めていきたいと思います。

◆　放課後児童クラブは地域社会の一部であり、利用児童一人ひとりのバックグラウンドや発達過程に寄り添いながら支援をすることが大切であると感じた。また、児童期は様々なことに興味が広がる時期であり、周囲の安全を守る援助も必要であると学んだ。子どもの現状を理解し、発達特性に関する正しい知識と「発達を支援（援助）」できる視点を持ちたい。さらに、子どもや保護者の生活環境は日々変化していくため、それに応じた知識や対応を学んでいきたい。

◆　児童期の子どもを早く次の時期へ移行させようとする考え方ではなく、一人ひとりの子どもの発達過程を理解し、発達障害と思わず、発達の違いを理解する大切さを学びました。子どもたちの放課後の生活の保障、保護者への育児や就労支援に資する役割の私たちが成長することが、子どもたちの発達を実質的に保障することになるため、自分の関わりを振り返り、理解者になる努力が重要だと感じました。

◆　児童期の発達の特徴を目安としながらも、すべての子どもにその基準を当てはめずに、個々の特徴を理解しながら支援していくことが必要であると分かった。また、個々の特徴を理解するためには、子ども個人だけでなく、子どもをとりまく生活環境に目を向け、理解することが大切だと思った。子どもの生活環境を理解するためには、本人だけでなく家庭や学校との関わりを深く持つことが重要だと思うので、実施できるようにしたい。

◆　発達には遺伝と環境、または、その両方が関わっているという考え方がある事を学び、また、それぞれの子どもたちがどのような環境の中で過ごしているのか背景を知り、支援することが必要不可欠だと再認識しました。また、「熱心な無理解者にならないことが大事」という言葉がとても印象に残りました。よかれと思って取った行動が、相手にとってはそうではなかったということはよくあると思うので、日々この言葉を心に留めながら業務に取り組もうと思いました。